

2023

3. 8 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_HePJmNzQTW-FC0Q_-VoCyw

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

生物多様性の見える化・DX化の可能性とその危険性

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

3D モデル

DX

メタバース

ワイルドネス

フィールドワーク

鹿野 雄一 研究員

一般社団法人九州オープンユニバーシティ



京都大学理学部・理学研究院にて学士号・修士号を取得、その後 2 年間日本各地で生物写真撮影と山スキーをした後、学界に戻り、三重大学生物資源学科にて博士号を取得しました。その後、九州大学に赴任し、断崖生態学、エコインフォマティクス、保全生態学に関わり、特にモンスーンアジアの水生物調査のフィールドワークに携わりました。現在は、一般社団法人九州オープンユニバーシティにて、オープンサイエンスを掲げて幅広い活動をしています。

近年あらゆる分野で、「DX」、「メタバース」、「AI」、などのキーワードの元、革新的なデジタル技術が実装し始めています。生物多様性科学の分野も例外ではありません。発表者は、これまで水生生物を中心に、生物多様性情報のデータベースの構築とデジタルアーカイブ、そして「生物多様性の見える化」を進めてきました。近年は特に、生物標本の 3D モデル化に力を入れており、これは DX とも非常に相性のいいコンテンツであるため、国内外から大きな反響を得ました。本発表ではこれらの取り組みのポジティブな可能性を探るとともに、「身体性」や「野性」を失いつつある現代社会におけるネガティブな危険性についても検討します。

2023

3.15 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_wTi9f7G0RvC6wQwI31P79Q

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

知のコモンズへの誘い： 環境心理学の視角から

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

人文社会科学

環境心理学

協働

学際領域

コモンズ

木下 寛子 准教授

九州大学人間環境学研究院 教育学部門

Education

2006-2014 年 九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻アーバンデザイン学コース

Degree

2017 年 3 月 博士 (人間環境学)

Work Experience

2014-2017 年 九州大学大学院人間環境学研究院 学術協力研究員

2017-2018 年 九州大学大学院人間環境学研究院 学術研究員

2018-2020 年 近畿大学九州短期大学保育科 准教授

2020- 現在 present 九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 / 人社系協働研究・教育コモンズ

Research Areas : 環境心理学、教育環境学

Research Interests : 学校、校区の雰囲気・風土

Publications : 「出会いと雰囲気の解釈学：小学校のフィールドから」(2020 年九州大学出版会)

「人社系協働研究・教育コモンズ」は、「イーストゾーン」の人文社会科学系領域を中心とした 4 部局 (人文・人間環境・経済・法学研究院) がもつ領域の広がりを活かした対話と協働を促進する場として 2019 年にスタートしました。私は、この場の設立に立ち会うことはできなかったものの、着任以来そこに多くの研究者の思いや夢が託されてきたことを聞き知りました。話題提供では伊都の東側で展開する「人社系コモンズ」について、逸話を交えながらご紹介いたします。それを通じて、「人社系コモンズ」という協働の場と、ある場所の経験と行為という切り分けられないユニットを探求する学際領域としての環境心理学へとお誘いします。

2023

3.22 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_1QS_GpzcRfO3ak8jFEASGQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

土壌動物「トビムシ」が案内する 九大演習林

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

九州大学演習林

土壌の生物多様性

土壌動物

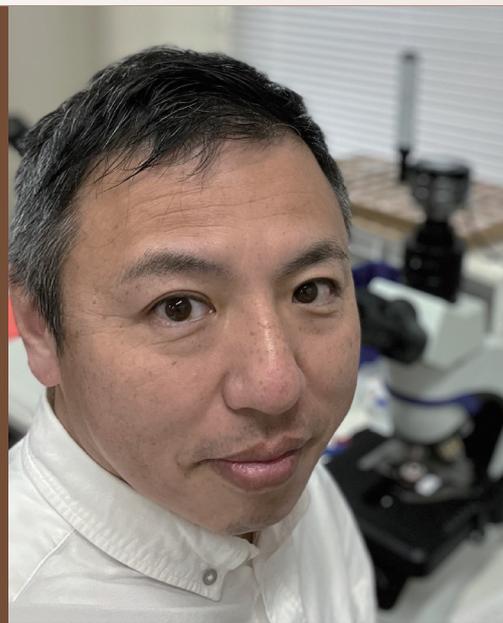
トビムシ

森林生態系の物質循環

ネットワーク研究

菱 拓雄 准教授

九州大学 農学研究院 環境農学部 森林環境科学



東京都の保谷市（現、西東京市）の出身です。1996年に京都大学農学部に入學、2005年に京都大学大学院農学研究科で博士（農学）の学位を取得しました。学位論文では森林の根の研究をしており、その成果によって、日本根研究会若手奨励賞を受賞しました。学位を取得したあと、京都大学で昆虫関連研究プロジェクトの研究者として土壌中の根と土壌動物の相互作用に関する研究を行いました。

2007年に縁があって九州大学農学部附属演習林に助教として赴任しました。九州大学演習林では福岡演習林に計4年、北海道演習林に4年、宮崎演習林に約6年勤務し、2020年度より福岡演習林長を拝命しています。九州大学演習林では、冷温帯から暖温帯、北方丘陵林、山岳森林、里山林という気候や社会的環境によって成り立ちの異なる森林において、現場体験に基づく実習・講義を担当してきました。

執筆については、主に土壌や生態学に関わる専門誌の論文業績が中心であり、書籍では「土の中の生き物たちの暮らし」などの一般書、「森林生態学」「森林立地」「土壌生態学入門」などの教科書で、分解者生物、特にトビムシという土壌動物の集団の成り立ちを解明する群集生態学分野について分担執筆してきました。

こうした森林環境の変化と土壌動物の集団形成のルールに関する教育・研究成果により、2019年に日本土壌動物学会研究奨励賞を受賞しました。

土壌生物は多様性が高く、陸域生態系機能の維持に重要な役割を果たしています。私は中でも特に姿かたちが多様で、陸域のどんな場所にでも生息できるため、世界中で生物多様性の比較が可能な「トビムシ」を研究対象としています。日本全国にネットワークを持つ大学演習林を基盤として、環境の変化がトビムシをはじめとする土壌動物の多様性を生み出す仕組みの解明や、土壌動物の多様性と生態系の炭素・養分循環との関係についての研究を行ってきました。発表では、小さな土壌動物「トビムシ」の多様性から、九州大学の森林がどのようにみえるのかを紹介します。

2023

3.29 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_LMk_4WImTP6MHXBeJ-rhQg

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

異分野へと広げる 興味の世界, 研究の世界

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

異分野連携

サイエンスカフェ

コミュニケーション

津守 不二夫 教授

九州大学 工学研究院 航空宇宙工学部門



山口県下関市出身です。

「学歴」

1994年 東京大学工学部 金属工学科 卒業

1996年 東京大学大学院工学系研究科 金属工学専攻
修士課程修了1999年 東京大学大学院工学系研究科 金属工学専攻
博士課程修了

1999年 博士 (工学) 学位取得

「職歴」

2000 大阪府立産業技術総合研究所 (現: 大阪産業
技術研究所) ポスドク研究員

2001 京都大学大学院工学研究科機械工学専攻 助手

2004 京都大学大学院工学研究科マイクロエンジニ
アリング専攻 講師

2009 九州大学大学院工学研究院機械工学部門 准教授

2020 九州大学大学院工学研究院航空宇宙工学部門
教授 (現在に至る)

「海外」

2012年 4~9月 フライブルク大学 (ドイツ)
Dept. Microsystems Eng, JSPS 優秀若手研究者海外派遣

「研究テーマ」

粉末をベースとした材料およびものづくりに関する
研究を行っています。生体模倣工学にも力を入れています。

楽しみながら異分野へと興味を広げていくにはどうすればよいでしょうか? 体系化・細分化された学問領域が固定化してしまうと、同じ領域内の人たちのみのコミュニケーションとなりがちです。思考や研究のアイデアの幅を広げるためには他分野にも興味を持つことが重要です。

多様な興味を持つ人たちとどのように接点を作っていくことができるか、やりとりをする機会を増やすためには、他分野の方々との対話が効果的です。このような目的で「いきものサロン」を開始しました。異分野をつなげる機会を増やすことで、皆さんのマインドも多様化していくことと思います。楽しみながら行っているこのような活動について紹介します。